

平成 24 年度公民館運営審議会（第 1 回）

とき 平成 24 年 6 月 18 日(火)午後 2 時

ところ 貝塚市立中央公民館 講座室 3

出席委員 浮穴委員長 沼野副委員長 明石委員 南委員 武本委員 南村委員 米田委員
馬場委員 中村委員 松下委員 大西委員 井上委員

欠席委員 竹内委員

出席職員 西野中央公民館長 大脇浜手地区公民館長 北野山手地区公民館長
稲田中央公民館長補佐 奥埜由起子(中央) 桑原知子(浜手) 高森紀明(山手)

(1) 2011 年度 貝塚公民館のあゆみについて

(2) 平成 24 年度 公民館重点目標、予算、春期事業について

武本委員：多彩な講座が展開されていますが、心の問題についてじっくり考えるようなものが欠けていると思います。

明石委員：学校でもそれは重要ですね。きちんと叱れる教師が少なくなっています。叱ることはエネルギーがいきますからね。挨拶をする。掃除をする。時間を守る。この 3 つを徹底して子どもに守らせ、理不尽さには強く臨む子どもを育みます。

井上委員：話は少しそれますが、議会だよりを読んでいて、「市立公民館条例の一部改正」社会教育法の一部改正に伴う改正と載っているだけで、何のことかわかりませんでした。

西野館長：審議会委員さんの委嘱基準について、これまで審議会規則で定めていましたが、条例で定める旨が社会教育法で定められましたので、そのように改正しました。また、従来の学識経験者、学校教育関係者、社会教育関係者に加え、「家庭教育の向上に資する活動を行う者」という文言が加わりましたが、実質的には何ら変わりません。今までもそのように委嘱させていただいております。

井上委員：公民館の問題ではなく議会事務局の問題ですが、わかりやすく内容を書いてもらいたいと思います。

浮穴委員長：講座内容について、カルチャーセンターは 4 つの H を掲げています。手技 (HAND) の向上、健康 (HEALTH) の向上、頭脳 (HEAD) の活性化、心 (HEART) の問題を考える…この 4 つです。公民館としてはこれに人権 (HUMANITY) を加えないといけませんね。

沼野副委員長：これからこんな講座を開催します、だけではなく、開催してどうだったか、参加者の声はどうだったかなどを知らせる必要がありますね。最近そういう報告がホームページに載っていたり、壁新聞として公民館ロビーに張り出されているのは、大変良いことだと思います。

浮穴委員長：へりくつ上手になるのもひとつの方法ですね。パパサロンは単にパパの交流だけで

はなく、男女共同参画につながる。ガーデニングは単に趣味ではなく、環境問題につながる、というように。

南委員：これだけインターネットが普及しフェイスブックなども盛んに行われる昨今、いつまでもアナログにこだわるのではなく、ネット上の講座など考えてみられてはどうでしょうか。

北野館長：物理的な問題、そのことにたけた職員の養成などいろいろ難しい問題がありますね。

南委員：要は意欲の問題ですね。行政の人はできない理由を並べ立てるのは得意ですが。

武本委員：とっかかりとしては良いですが、やはり公民館は人と人との交流が大切なことなので、ネットで参加というのはどうも趣旨にあわないと思います。

沼野副委員長：でも、講座の様子を流すというのはいいですね。フレッシュサウンドコンテストの音楽が You Tube で流れたりしたら、次からの参加が増えるのではないのでしょうか。

明石委員：学校のホームページに「今日の給食」を載せたら、非常にアクセスが多くなりました。

井上委員：公運審の答申もホームページに載っていますね。どれぐらいヒットしているかわかりますか。

浮穴委員長：貝塚市のホームページ全体としてはわかるでしょうけどね。家でパソコンをよく利用する人は、高齢者では少ないかもしれませんが、例えば学校のパソコンルームを地域の人が利用することはできますか。

明石委員：夜間になりますけどね。学校のいろんな部分を利用していただくことは可能です。

浮穴委員長：これからも公民館が地域や学校と結びついていくための新しい方策を、次の討論で探っていきましょう。

資料：富田林市立中央公民館チラシ（「市民中学」、「巡回公民館」、「町のすぐれ者」について）

★グループA

浮穴委員長・沼野副委員長・明石委員・稲田

公民館と地域、学校との連携

- ・学校はあらゆることで地域や公民館とつながろうとしている。
子どもの作品を公民館や病院、スーパーで展示したり、夜間の教室や図書室、校庭の開放、学校給食や製作、栽培などをともに体験することで、双方の理解につながり得られることは多い。また、子どもへの見守りにもつながっていく。
- ・市民大学の例はあるが、富田林の例のように中学の授業を大人の人に行ったり、市民小学があっても良いのではないか。高齢者にとっては脳の活性化、教師にとっても思わぬ効果がある。
- ・地域の町会館での出前事業などでは、企画と謝礼は公民館が受け持ち、場所と人集めは町会で担うなど役割分担をすることで、次第に手が離れる場合もあるし、町会に予算があってもノウハウがない場合などしばらく関わる場合もある。「まちのすぐれもの」の情報提供もある。

- ・講座の開始は、働く人には 19 時や 19 時半でも早いかもしれない。土曜、日曜はまた別の予定があり、平日の中で自分のために使う時間がほしい場合もある。
- ・いずれにしてもみんなが協力的なわけではなく、熱心に働きかけて理解が得られても学校の担任や町会の役員が入れかわり、一からリセットになる場合もある。地域や学校との連携が継続した取り組みとして確立するよう努力が必要である。

★グループ B

南委員 武本委員 大脇館長 高森

- ・「まちのすぐれ者」の話があったが、一覧名簿のようなものはないのか。
- ・閲覧用のリストは各公民館や社会教育に置いているが、個人情報関係で氏名などは載せていない。また、以前、学校が総合教育などで来て頂いている講師などと併せ一本化しようとしたが、学校にはリスト化したものがないということで、実現しなかった。
- ・PTA で年 1 回事業をするが、何をするか誰に頼めばいいか、考えるのが大変。
- ・「まちのすぐれ者」に載っているのは、大半が講座等学習のための講師で、イベント等の出演者ではない。“出演してもらえるところ”ということでは、社会福祉協議会の一覧表がある。公民館のクラブも載っているので、いいと思うものがあれば言って頂いたら協力できると思う。
- ・公運審の委員になって「まちのすぐれ者」の制度があることを知ったが、知らない人も多いと思うので、押し売り（「こんな制度がありますよ。活用してください。」と宣伝に出かけること）も必要じゃないか。
- ・PTA の役員は 1 年ごとに代っていくので、取組みが例年通りになりがち。少し違うことをしようとしても、情報が少ない。
- ・利用した人たちの感想などがあると、もっと頼みやすいのでは。
- ・学校と公民館とが協力して取り組むようなことはないのか。
- ・文化事業などで会場をお借りしたり、すこやかネットなどではご一緒したりするが、共同の取組みということでは、あまりできていない。学校には、「これ以上負担になることはしたくない」という雰囲気があって、なかなか話しづらい。もともと、公民館としても、学校や PTA のことに関してあまりよく知らない（情報収集ができていない）ということも一因。
- ・学校関係は今、ホームページに結構いろいろ載せている。市 P の年間行事の記録もある。
- ・社協でも、校区福祉委員会の会議が隔月にある。みかん狩りなどの事業もしている。
- ・浜手の利用状況・稼働率はどうか。
- ・部屋数が少ないので、利用回数を調整しながら使って貰っている。大幅に増える可能

- 性はない。ただ、ロビーは、子どもから高齢者まで、地域の人たちが居場所としてよく利用している。住宅地の真ん中にある公民館としての特性は充分生かされている。
- ・浜手が特別なのもかもしれないが、公共施設がもっと使いやすくなればいいのと思う。気軽に足を運べるような、垣根の低い施設になってほしい。
 - ・働き盛りの男性にとって、どんな内容の講座があれば来てみたいと思うか。
 - ・パソコンやスマートフォン・iPad の講座が、平日の夜にあればいいと思う。店舗で使い方などを聞いても、簡単な説明はしてくれるがもっと聞こうとすると面倒臭がられる。説明書を読んでも知りたいことがどこに載っているのか、探すことから大変。休日も学校や地域などいろんな用事のあることが多いので、平日の夜だと助かる。

★グループC

南村委員・馬場委員・米田委員・中村委員・西野館長・奥埜

公民館が地域へかかわりをもつ方法は？

- ・若い世代を呼び込むには、HP利用
- ・ターゲット（年齢・男女）を考えて、それに合わせたものを開催
- ・商店街の活用・空き店舗やスペース
- ・町会への宣伝スペース（町会館など）
- ・中学生・高校生の参加（ダンスや音楽など）
- ・学校を使っのイベント
- ・夜桜ライブは成功だった → それだけで終わらせない→そこにいけば必ずなにかしている、展示している といったことが大事ではないか？

★グループD

井上委員、大西委員、松下委員、北野館長、桑原

講座の中で職員より地域のつながりを要望されたが、急に言われても対応にとまどった。経過を大事にして内容を詰めて、丁寧なコミュニケーションが必要と思った。

町主催の行事で、一年に一度輪番制で一時間講演を話す企画があるが、人気のある人は多くくる。上からの指示で企画をもっていけば、どうしても反発を受ける。一緒に企画したり、お手伝いのような形が受け入れてもらえやすいのではないか。

公民館で活動を盛んにしている人でも、地域でPTA等の役員を積極的にしようとしても周りがついてこない、浸透していない場合がある。とても落差を感じる。

一方で世話役などなりてがなく、養成が必要だが、厳しい状況である。

グループ活動でも一部の人に左右されず、本音を出し合える活動をしないと続かない。